

2011国際森林年のテーマについて  
「森を歩く」  
～未来に向かって日本の森を活かそう～  
～森林・林業再生元年～

2011年は、我が国が10年後の木材自給率50%を目指し、林業から流通業、製造業までを組み合わせた国産材利用のシステムを作ることに取り組む「森林・林業再生プランの実施元年」です。また、我が国の歴史の中でそうであったように、資源として森林の恩恵を持続的に受けとり、我々の暮らしの中で身近に感じ総合的に活用していくことが求められています。

国際森林年のテーマ設定に当たっては、我が国の森林・林業のおかれた現状を認識し、課題を克服するための未来に向けたメッセージが必要です。また、林業に関わる者だけでなく、国民全体と森林のきずなを取り戻すため、国民目線で森林との関わりや森と親しむことを提案する具体的なメッセージも必要です。

第1回国際森林年国内委員会の議論においても、このような幅広い観点が出されたことから、これらを踏まえ、国際森林年のテーマを「森を歩く」とし、サブテーマとして「未来に向かって日本の森を活かそう」、「森林・林業再生元年」とすることを決定します。

「森を歩く」というテーマは国民による森林への理解の入口として、容易に参加できる具体的行動を提案するものです。国民が森を訪れることにより、林業を含む地域産業への波及も意図しています。また、森林・林業再生プランの推進に当たり、関係者自らが現場の森林を歩き、現状を体感することも求めています。

「森林・林業再生元年」を契機に、未来に向かって豊かな森を引き継ぎ、森に関わる人を育くみ、暮らしの中で木を使うことが進む

よう期待しています。その思いを込めて「未来に向かって日本の森を活かそう」というサブテーマを添えております。

「森を歩く」ことは、林業への現状認識や未来の子どもたちの教育だけでなく、都市生活で低下している大人の気力・体力に資するものです。このため、林野庁をはじめ政府の人間も自ら積極的に森を歩くことで、能力をフルに発揮できるようにしたいと考えています。

2011「森林・林業再生元年」は「未来に向かって日本の森を活かすため」国民が「森を歩く」年になります。